

北浦遺跡・上ノ平遺跡

— 携帯電話基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2013

群馬県安中市埋蔵文化財発掘調査団

北浦遺跡・上ノ平遺跡

— 携帯電話基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2013

群馬県安中市埋蔵文化財発掘調査団

例　　言

- 1 本書は、ソフトバンクモバイル株式会社により計画された携帯電話基地局建設工事に伴う北浦遺跡（遺跡略称H-5）ならびに上ノ平遺跡（遺跡略称D-30）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 北浦遺跡は、安中市野殿字北浦403番1（調査原因是PLB安中野殿B局建設）に所在し、上ノ平遺跡は安中市小俣字上ノ平268番1（調査原因是PLB安中小俣A局建設）に所在する。
- 3 確認調査は、平成24年度国庫補助金・県費補助金により、北浦遺跡については、安中市教育委員会学習の森文化財係菅原龍彦が実施した。上ノ平遺跡については、瀧川仲男が実施した。
- 4 本調査および遺物整理については、原因者負担で安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団が、委託を受けて実施した。

団長 中澤 四郎（教育長）	副団長 佐俣 信之（教育部長）
事務局長 佐藤 房之（学習の森所長）	事務局次長 藤巻 正勝（文化財係長）
経理担当 原 久美子（文化財係主査）	調査担当 瀧川 仲男（文化財係主査）

- 5 発掘調査に従事していただいたのは、次の方々である。
(北浦遺跡) 岩井 英雄 遠間 宰吉 成願 八千代 田川 真知 今井 保美 野口 義則
(上ノ平遺跡) 高橋 文男 竹井 五郎 成願 八千代 鬼形 敦子
- 6 北浦遺跡の確認調査は平成23年3月27日に、発掘調査は平成24年7月2日～7月13日にそれぞれ実施した。上ノ平遺跡の確認調査は平成24年6月20日に、発掘調査は平成24年11月6日～11月13日にそれぞれ実施した。また、資料整理については、発掘調査終了後から平成25年3月まで断続的に実施した。
- 7 本書の編集・執筆は瀧川が行い、鬼形 敦子がこれを補佐した。
- 8 資料整理にあたっては、井上 慎也（文化財係主査・文化財保護主事）、菅原 龍彦（文化財係主事）、壁 伸明（行政嘱託員）の協力を得た。
- 9 遺物実測・トレース・遺構図等の作成は、廣上 良枝、中里 徳子、染谷 紗子の協力を得た。
- 10 遺物実測・トレースの一部と遺物写真および遺物観察については（株）甲セオリツに委託した。また、土層断面図作成作業の一部については（株）大成測量に委託した。
- 11 発掘調査の記録および出土遺物は、安中市教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査および整理作業にあたっては、多くの方々にご指導・ご協力をいただいた。ここに感謝の意を表す。

凡　例

1 遺構図中の北マークは磁北である。座標値は旧日本測地系である。

2 遺構実測図および遺物図の縮尺は原則下記のとおりであるが、該当箇所にスケールあるいは縮尺を掲載した。また、遺物写真については1/3を原則とした。

全体図・トレンチ	1/80
住居址	1/60
土坑	1/60
遺物	1/4 (写真は1/3)

3 土層説明中の記号、略称は次のとおりである。

色調<：より明るい方向を示す（暗<明）

しまり、粘性 ◎：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし

混入物の量 ◎：大量（30～50%） ○：多量（15～25%） △：少量（5～10%）

※：若干（1～3%）

混入物 R P：ローム粒子（溶け込んだ状態） R B：ロームブロック（固まりの状態）

Y P：板鼻黄色軽石

4 本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。

浅間A軽石=A s - A 浅間B軽石=A s - B 浅間板鼻黄色軽石層=A s - Y P

5 土層名称及び量の基準は「新版標準土色帖」による。

6 遺物の観察については、それぞれの遺跡ごとに遺物観察表を用いてまとめた。遺物観察表内の（ ）

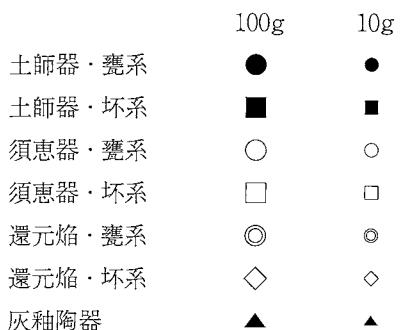
は推定値を、< >は残存値を示している。

7 遺構・遺物の略称は次のとおりである。

遺構 J：住居（縄文）、H：住居（古代）、D：土坑

遺物 S：石器・礫、P：土器

8 遺物重量分布図に用いた記号は以下のとおりである。



目 次

例言

凡例

目次

挿図目次・表目次・写真図版目次

北浦遺跡の調査

I	調査に至る経過	1
II	調査の方法と経過	1
III	遺跡の環境	2
	1 地理的環境	
	2 歴史的環境	
	3 層序について	
IV	遺構と遺物	4
	1 遺跡の概要	
	2 縄文時代の遺構と遺物	
	3 平安時代の遺構と遺物	
	4 遺物について	

上ノ平遺跡の調査

I	調査に至る経過	12
II	調査の方法と経過	12
III	遺跡の環境	13
	1 地理的環境	
	2 歴史的環境	
	3 層序について	
IV	遺構と遺物	15
	1 遺跡の概要	
	2 遺構について	
	3 遺物について	

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 北浦遺跡周辺遺跡図	(2)	第12図 H-3, 4, 5号住居址	(9)
第2図 北浦遺跡調査区位置図	(3)	第13図 平安時代土坑・出土遺物	(10)
第3図 北浦遺跡全体図	(4)	第14図 上ノ平遺跡周辺遺跡図	(13)
第4図 J-1号住居址・出土遺物	(5)	第15図 上ノ平遺跡調査区位置図	(14)
第5図 繩文時代土坑・出土遺物	(5)	第16図 上ノ平遺跡全体図	(15)
第6図 H-1号住居址	(6)	第17図 北トレンチ壁土層断面	(16)
第7図 H-1号住居出土遺物	(7)	第18図 ベルト土層断面・溝エレベーション	(16)
第8図 H-2号住居址(1)	(7)	第19図 南トレンチ壁土層断面	(17)
第9図 H-2号住居址(2)	(8)	第20図 推定遺構模式図	(17)
第10図 H-2号住居出土遺物	(8)	第21図 上ノ平遺跡出土遺物	(18)
第11図 H-3, 4, 5号住居出土遺物	(8)		

表目次

第1表 北浦遺跡周辺遺跡一覧	(2)	第3表 上ノ平遺跡周辺遺跡一覧	(13)
第2表 北浦遺跡遺物観察表	(11)	第4表 上ノ平遺跡遺物観察表	(18)

写真図版目次

PL 1 <北浦遺跡>	PL 4 <上ノ平遺跡>
1. 北浦遺跡 全景 (西から)	1. 南トレンチ 全景 (東から)
2. J-1号住居址 炉	2. 南壁土層断面
3. 3号土坑 全景	3. ピット1 検出状況
4. H-1号住居址 全景	4. 1号集石 全景
5. H-1号住居址 カマド・貯蔵穴	5. 上ノ平遺跡 全景 (西から)
PL 2 <北浦遺跡>	PL 5 <上ノ平遺跡>
1. H-2号住居址 全景	1. 北トレンチ 全景 (西から)
2. H-2号住居址 カマド	2. 北壁土層断面
3. H-3号住居址 全景	3. ピット2 検出状況
4. H-3号住居址 カマド	4. 2号集石 全景
5. H-4号住居址 カマド土層断面	5. ベルト土層断面
6. H-5号住居址 カマド	
7. 2号土坑 全景	
8. 5号土坑 全景	
PL 3 <北浦遺跡>	PL 6 <上ノ平遺跡>
出土遺物 1~24	1. 上ノ平遺跡 調査風景
	2. 上ノ平遺跡 遠景 (南から)
	3. 出土遺物 1~9

北浦遺跡の調査

I 調査に至る経緯

平成24年2月20日、ソフトバンクモバイル株式会社モバイルネットワーク本部東京技術統括部基地局建設部部長 吉川 充氏（代理申請者：メディアテック一心東京支店 担当者 小貫 重則）から、携帯電話基地（PLB安中野殿B局）建設工事予定地における埋蔵文化財の状況について問い合わせがあった。当該の場所は周知の埋蔵文化財包蔵地内にあり、開発については安中市教育委員会との協議が必要である旨を伝えた。

平成24年3月22日に確認調査の依頼書・発掘承諾書を含めた文化財保護法第93条（以下、法93条）に係わる必要書類が提出された。そして、平成24年3月27日に確認調査が実施された。同日午後、ソフトバンクモバイル株式会社の担当者、代理申請者に調査概要を説明するとともにその取り扱いについて協議した。その席で、計画通りに工事が実施された場合には遺構への影響は逃れられないで、工事計画の変更を求めた上での「工事立会」を提示した。しかし、遺構への影響が避けられない事態が将来的に予想されるという原因者からの申し出により、発掘調査による記録保存を実施する運びとなった。法93条通知については、平成24年4月10日付で「発掘調査」の指示を出した。

その後、発掘調査に向けての協議・調整を行い、同年6月28日付でソフトバンクモバイル株式会社と安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長は、安中市教育長）の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を7月2日から開始した。

II 調査の方法と経過

発掘調査方法の概要については、次のとおりである。まず、確認調査の結果により、工事により影響を受ける部分を中心に調査範囲を決定し、バックホーにより表土を掘削した。その後、ジョレンを使用して人力で遺構確認を行い、遺構の精査を行った。住居址の調査については、分層16分割法を基本に行った。精査した遺構については、写真撮影、測量（土層及び平面）を行った。また基準点については、工事用測量杭等を適宜使用して現場での測量を実施した。

当該地は安中市の遺跡No.513に登録されているので、工事予定地に1.2m幅のトレーナーを2本設定し、バックホーにより遺構確認面まで掘削し、人力で遺構確認を行った。確認調査では、地表下約30cmにおいて地山と思われるローム面が認められた。住居址と思われる黒色土の平面プランやカマド跡と思われる焼土も確認された。遺構の範囲を探るために補助的に0.6m幅のトレーナーの掘削を実施したが、新たに明確な遺構等は検出されなかった。

発掘調査では、平成24年7月2日から7月13日にかけて住居址6軒と土坑5基を調査した。調査区は工事設計図をもとに基準点を設定し、位置を記録した。遺構測量は、平板測量により1/40で作成し、遺構の高さを記録した。土層断面図及び微細図は、ビニール転写法による測量により原寸大で作成した。出土した遺物は、遺構単位で区ごとに取り上げ記録した。

資料整理及び報告書作成については、発掘調査終了後、平成25年3月22日までの間、断続的に実施した。資料の基礎整理は、9月・10月に実施し、遺物の洗浄・注記・接合・分類及び遺物台帳作成等の遺物整理・実測、図面の修正・整理、各種台帳の整理、写真整理を中心に行った。上ノ平遺跡の基礎整理終了後の12月から2月にかけて本格的に報告書作成及び編集作業に取り組んだ。

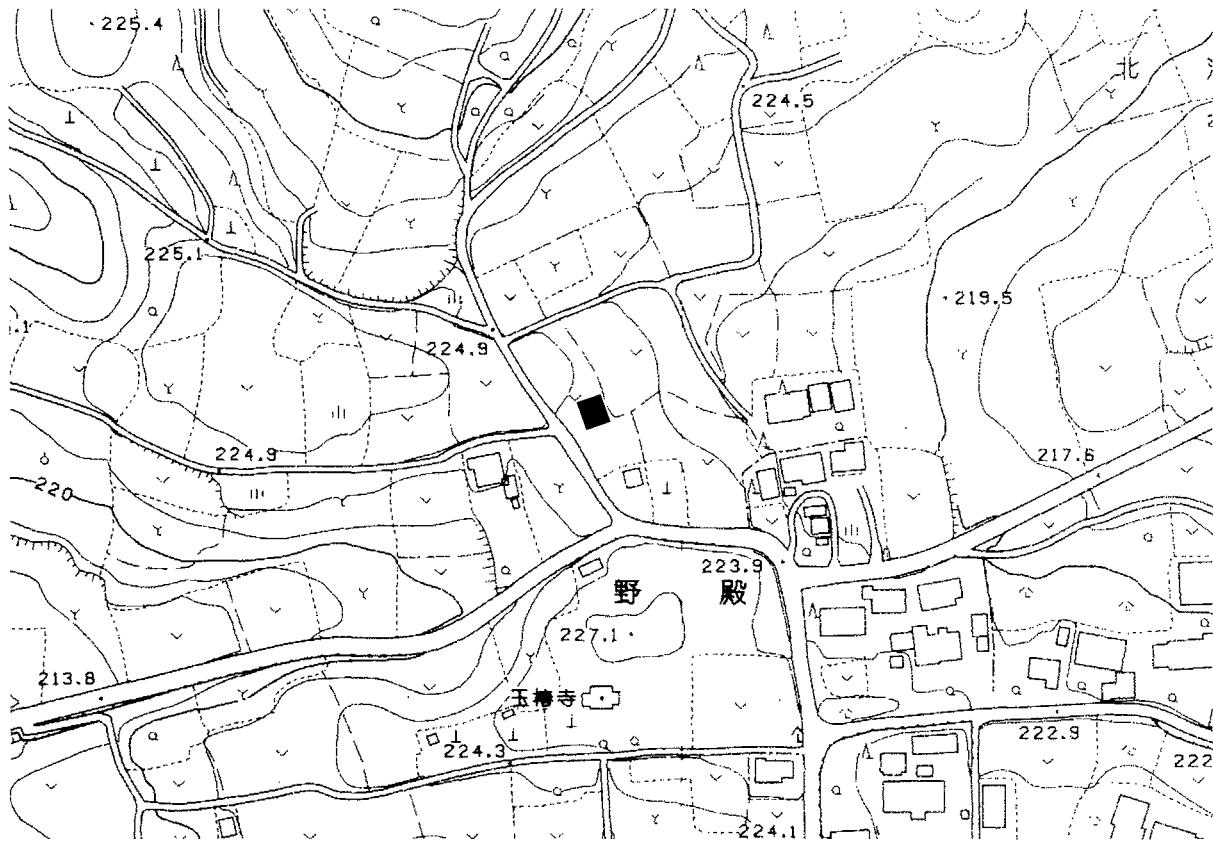
III 遺跡の環境



第1図 北浦遺跡周辺遺跡図

第1表 北浦遺跡周辺遺跡一覧

No.	< 遺 跡 名 >	(備 考)
1	北浦遺跡	本報告
2	野殿北屋敷	中・近世
3	西殿遺跡	古墳～古代集落
4	堀谷戸遺跡	古墳～古代集落
5	堀谷戸Ⅱ遺跡	古代集落
6	野殿天王塚古墳	終末期古墳
7	館谷津遺跡	中世館跡
8	中宿在家	古代水田跡、中世館関連
9	中宿在家Ⅱ	古代水田跡、中世館関連
10	西ノ平	古代集落



第2図 北浦遺跡調査区位置図 1/2,500

1 地理的環境

安中市は、群馬県西部に位置し、東京都心まで約120kmの距離にある。周囲は、高崎市・富岡市・下仁田町および長野県に接している。西部には長野県との県境をなす碓氷峠があり、北部に榛名山、南西部に妙義山を望む。中心部には東西方向に碓氷川が流れている。また、その北側には平行して九十九川が流れ、市内東部で両川は合流する。これらの河川流域には河岸段丘が発達している。

北浦遺跡が所在する野殿地区は、碓氷川の右岸の岩野谷丘陵に位置している。

2 歷史的環境

北浦遺跡は、縄文・古墳・奈良・平安の埋蔵文化財包蔵地（安中市遺跡No.513）として登録されている。本遺跡の所在する野殿地区において発掘調査は、野殿北屋敷・西殿遺跡と堀谷戸遺跡、堀谷戸Ⅱ遺跡、西ノ平遺跡で行われている。

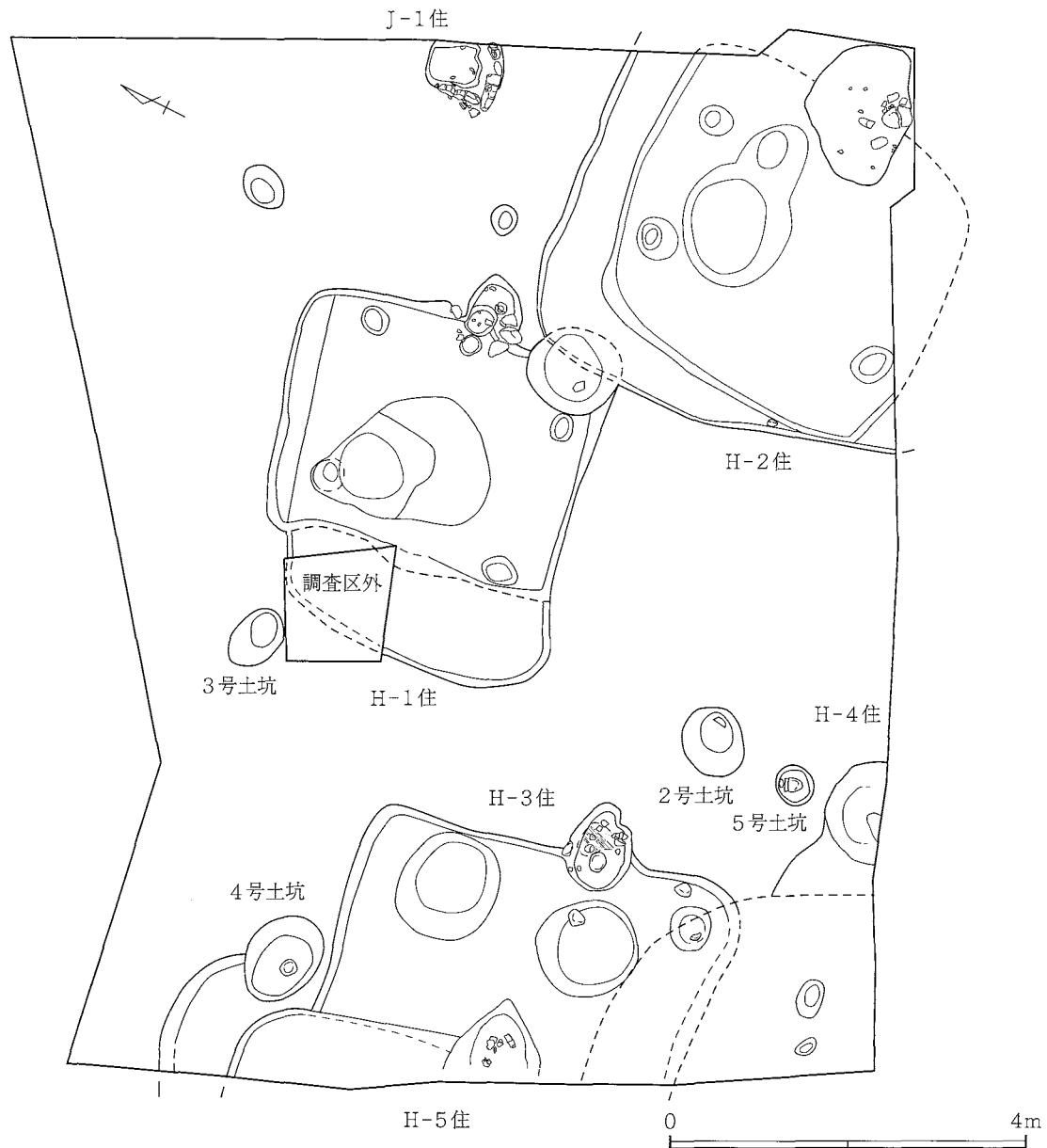
周辺の遺跡とその時期・概要については、「第1図 北浦遺跡周辺遺跡図」を参照していただきたい。

3 層序について

北浦遺跡の土壤堆積は、I a層（黒褐色）が30cmほどで、その直下にV層（黄褐色粘質土層）が認められた。本来その間にある浅間A軽石純層、IIa層、B軽石純層、III層（弥生時代～古代相当）、IV層（縄文時代相当）などの土層は、削平により明確に確認できなかった。

IV 遺構と遺物

1 遺跡の概要



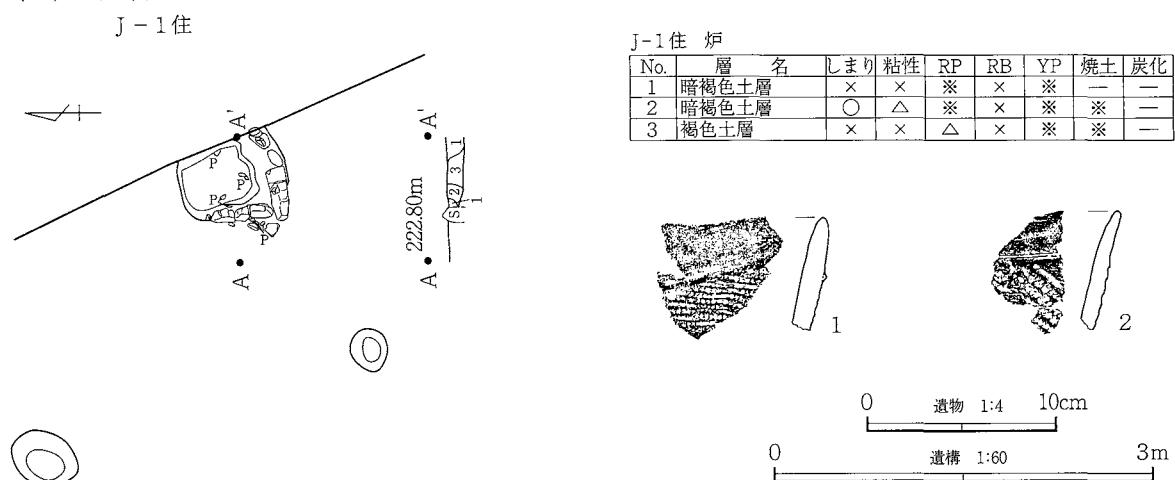
第3図 北浦遺跡全体図

発掘調査では、縄文時代の「平地式住居址」の可能性がある炉が1基検出された。面を精査した結果、炉との方向性から考え、住居に伴うと思われるピットも2基検出された。さらに、縄文土器を伴う土坑も1基検出されている。

古代の遺構については、「時期の連続した重複」があると考えられる平安時代の住居が2軒検出された。また、カマドだけなどと部分的ではあるが、3軒が重複している住居も検出された。さらに3基の土坑が検出された。

2 縄文時代の遺構と遺物

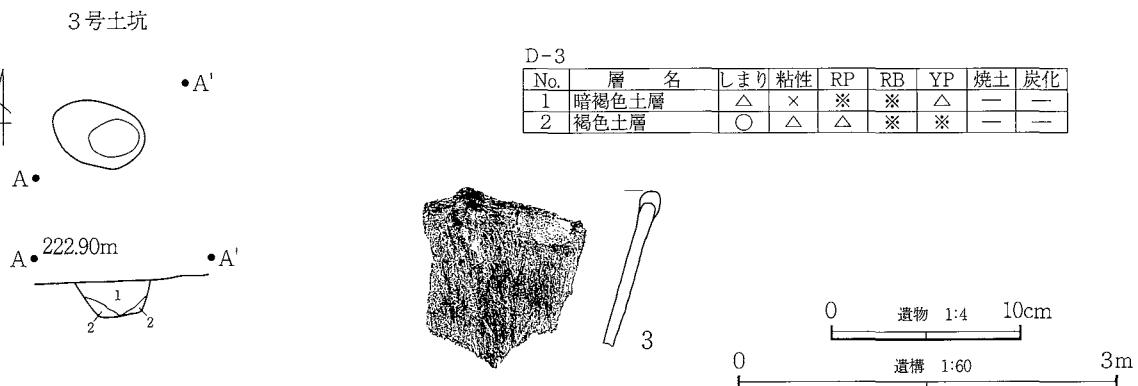
(1) 住居址



第4図 J-1号住居址・出土遺物

炉は石囲いとなっていた。炉石の残る箇所では掘方をはっきり観察することができたが、東半分の石は早い段階に抜き取られたようである。表面にわずかに焼土が散っていたが、明確な使用面は検出されなかつた。また、壁や床面などを検出することはできなかつたが、周辺面を精査した結果、しっかりしたピットが2基検出されたので、平地式住居の可能性も考えられる。炉内からは、縄文時代中期（加曾利E III～E IV）の土器片が出土している。

(2) 土坑

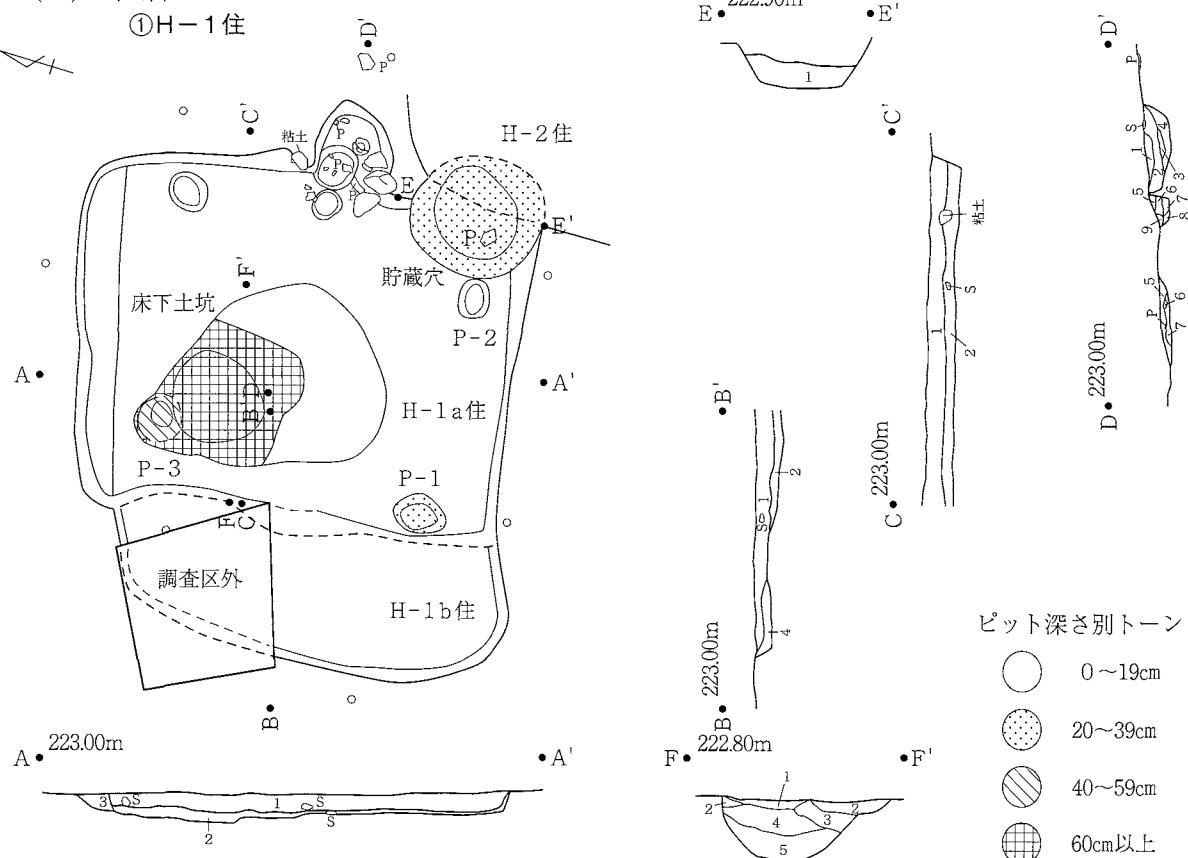


第5図 縄文時代土坑・出土遺物

縄文時代の土坑は1基検出された。後世の削平のため、掘り込みのはっきりしない浅い土坑である。底面からは、縄文時代後期初頭に比定される土器片が出土している。

3 平安時代の遺構と遺物

(1) 住居址

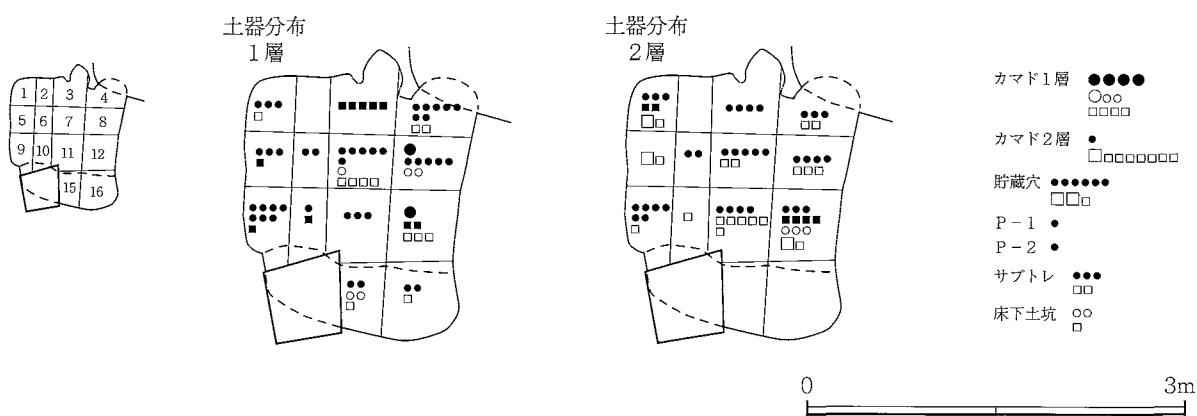


H-1 住							
No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土 炭化
1	暗褐色土層	△	△	△	※	※	— —
2	黒褐色土層	○	△	△	※	△	— —
3	黒褐色土層	×	×	※	※	△	— —
4	黒褐色土層	×	×	△	※	△	— —

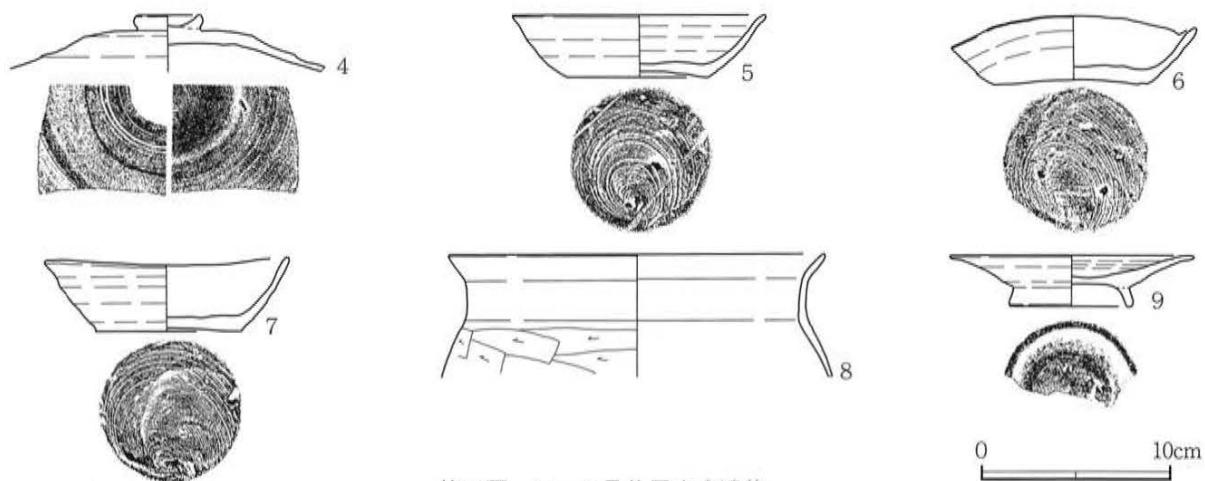
H-1 住 床下土坑							
No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土 炭化
1	黒褐色土層	△	○	※	※	※	— —
2	黒褐色土層	○	○	○	△	※	— —
3	にぶい黄褐色土層	○	△	○	○	△	— —
4	にぶい黄褐色土層	×	△	△	△	○	— —
5	にぶい黄褐色土層	×	○	△	△	○	— —

H-1 住 貯藏穴							
No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土 炭化
1	黒褐色土層	×	×	△	※	○	— —
2	カマド						

H-1 住 カマド							
No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土 炭化
1	褐色土層	×	×	○	※	※	— —
2	褐色土層	△	△	※	×	※	— —
3	暗褐色土層	×	×	※	※	※	△ —
4	灰黃褐色土層	×	×	○	×	×	— —
5	暗褐色土層	△	△	△	×	△	— —
6	にぶい黄褐色土層	×	×	△	※	△	※ —
7	黒褐色土層	△	△	△	※	※	※ —
8	暗褐色土層	×	×	×	×	※	△ —
9	黒褐色土層	×	×	×	×	※	※ —

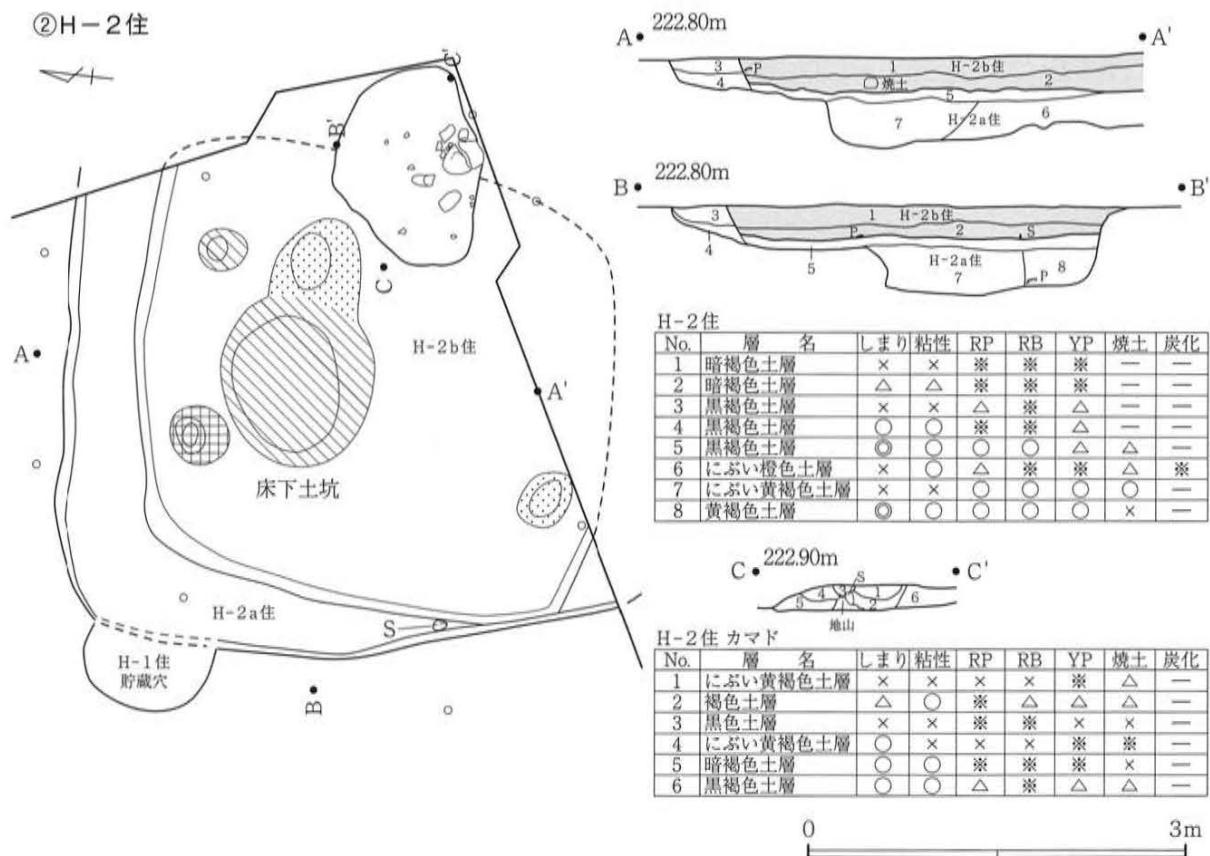


第6図 H-1号住居址

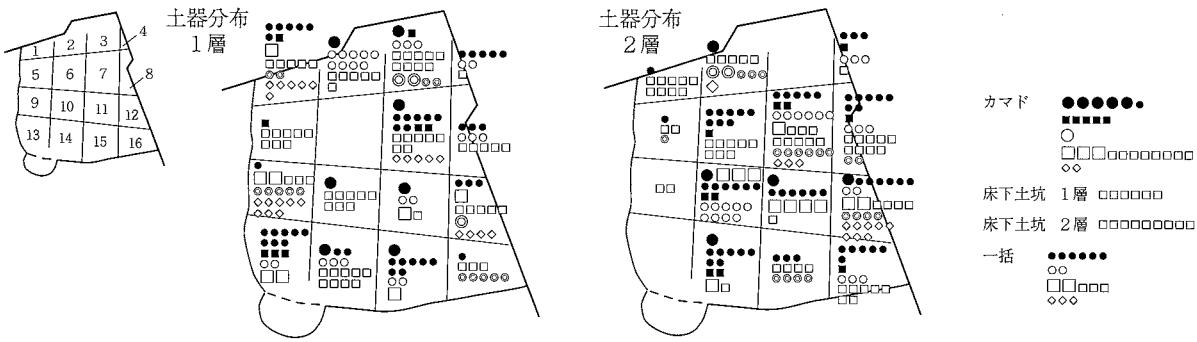


第7図 H-1号住居出土遺物

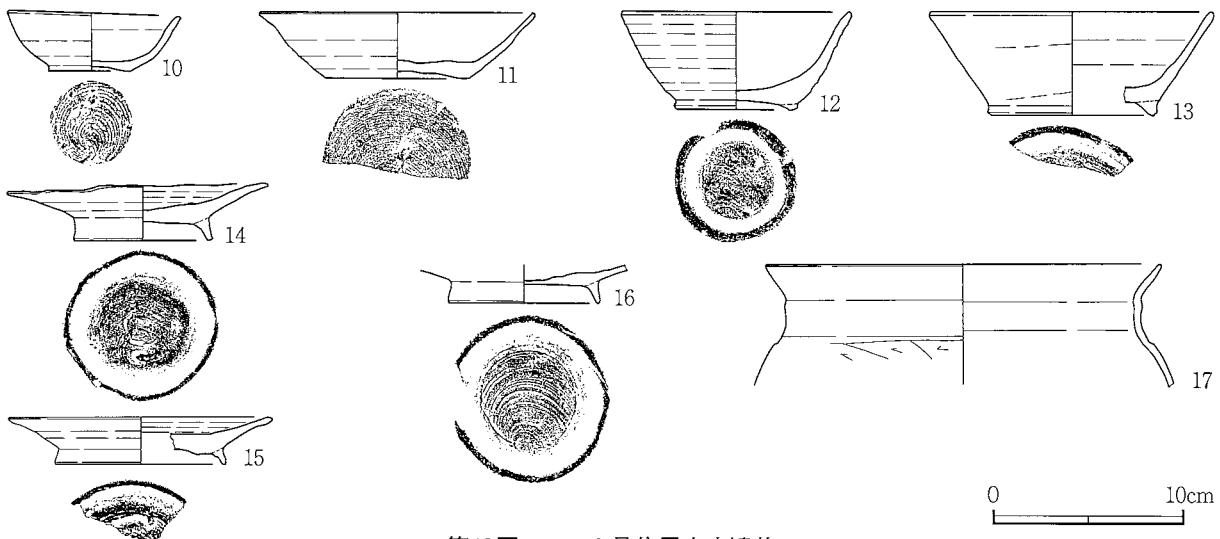
東カマドの住居である。出土遺物を観察した結果、9世紀前半に比定される時期の連続する重複住居の可能性が高い。切り合ひ関係から、正方形を呈する住居が古く、長方形を呈する住居が新しい。古い方をH-1a住居、新しい方をH-1b住居とした。床下土坑は1基検出された。位置からしてH-1a住居に伴うものと考えられる。貯蔵穴は、カマド右手の南辺隅に掘られていたが、重複するH-2号住居によって切られていた。カマドの焼土は残っていたが、使用面の焼きしまりは見られなかった。土層断面上にH-1a住居、H-1b住居のカマドの痕跡が観察できた。ピットは4基検出された。



第8図 H-2号住居址(1)



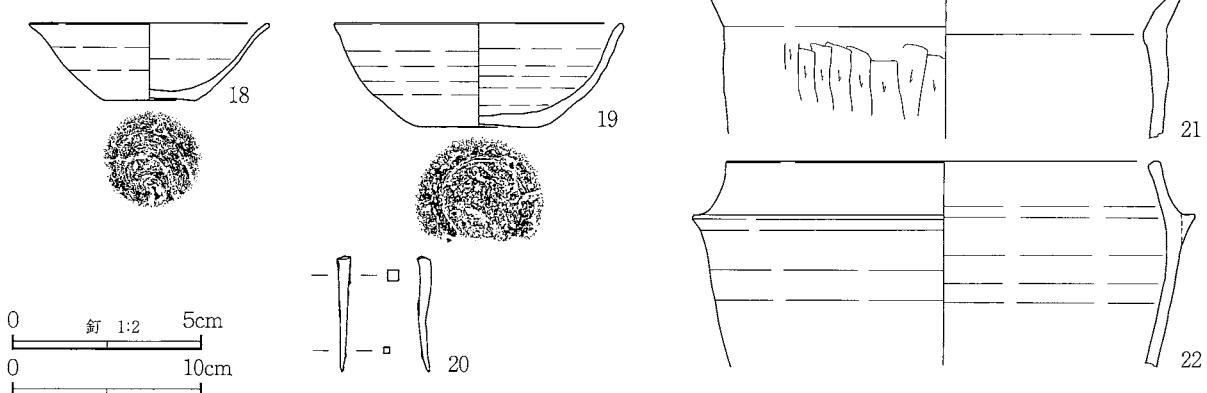
第9図 H-2号住居址(2)



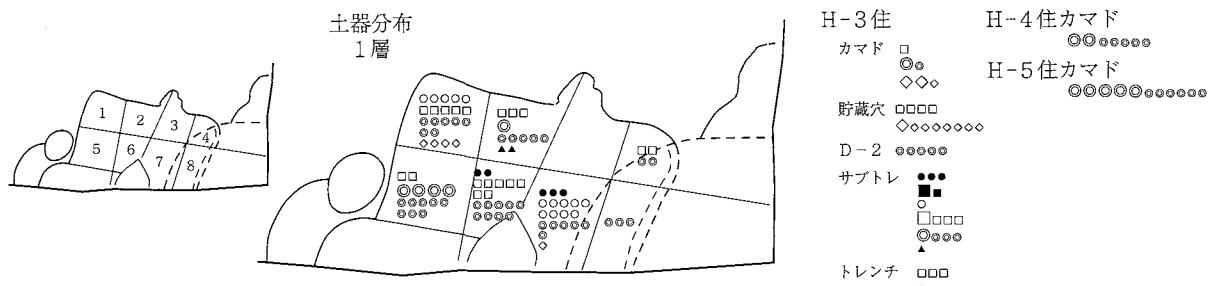
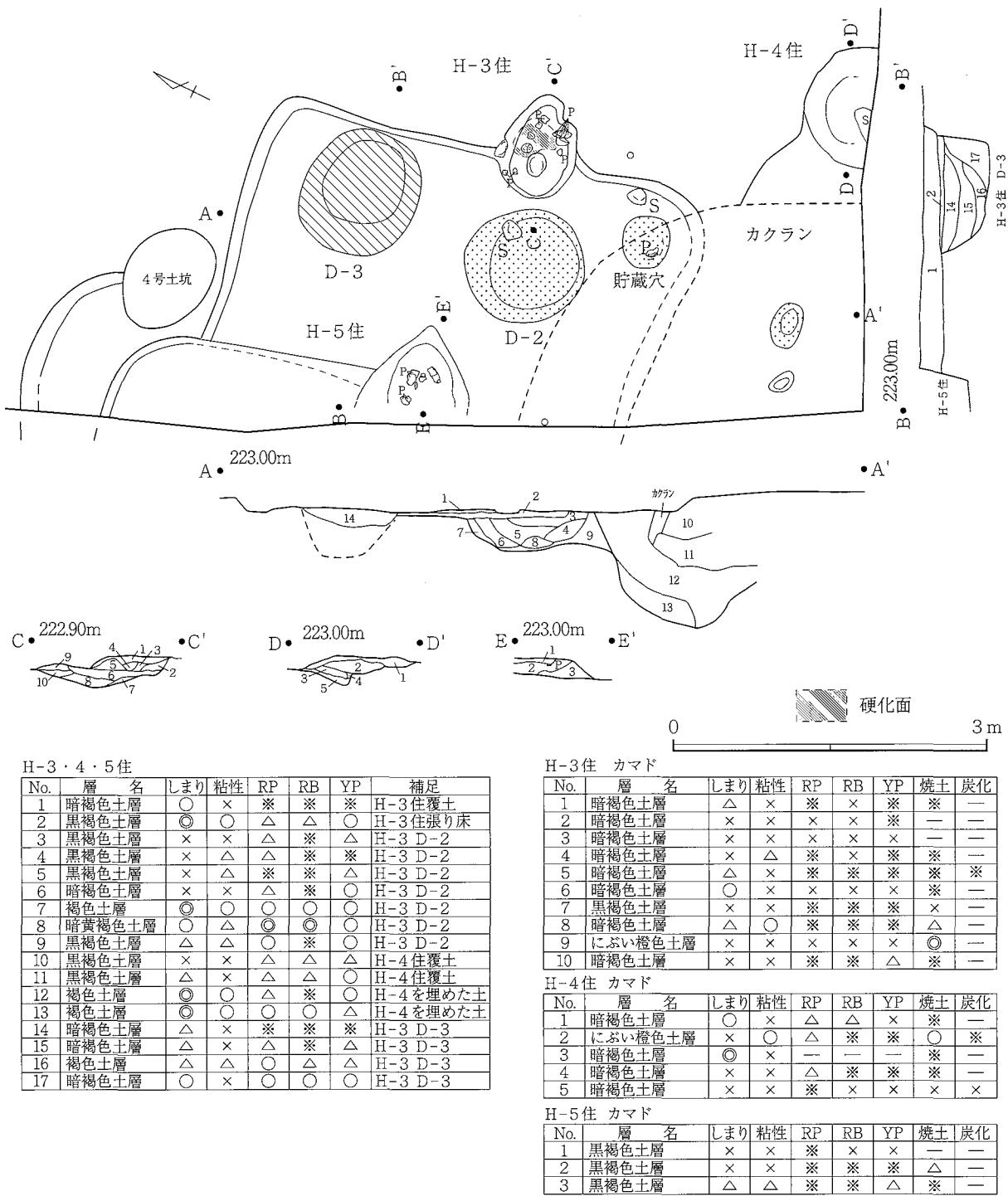
第10図 H-2号住居出土遺物

H-1号住居址と同様に東カマドの住居である。出土遺物を観察した結果、9世紀後半に比定される時期の連続する重複住居と考えられる。下に位置する古い住居をH-2a住居、上に位置する新しい住居をH-2b住居とした。床下土坑のセクションには焼土が観察されカマドの可能性も考えられたが、位置や高さについて検討した結果、床下土坑とした。カマドには、焼土や崩れたカマド材が残り、床面の焼きしまりもあった。それは調査区外に向かってさらに延びていた。貯蔵穴は、調査区外にあると考えられる。ピットは3基検出された。遺物の16については、時期が新しく混入遺物と考えられる。

③H-3・4・5住



第11図 H-3・4・5号住居出土遺物



第12図 H-3・4・5号住居址

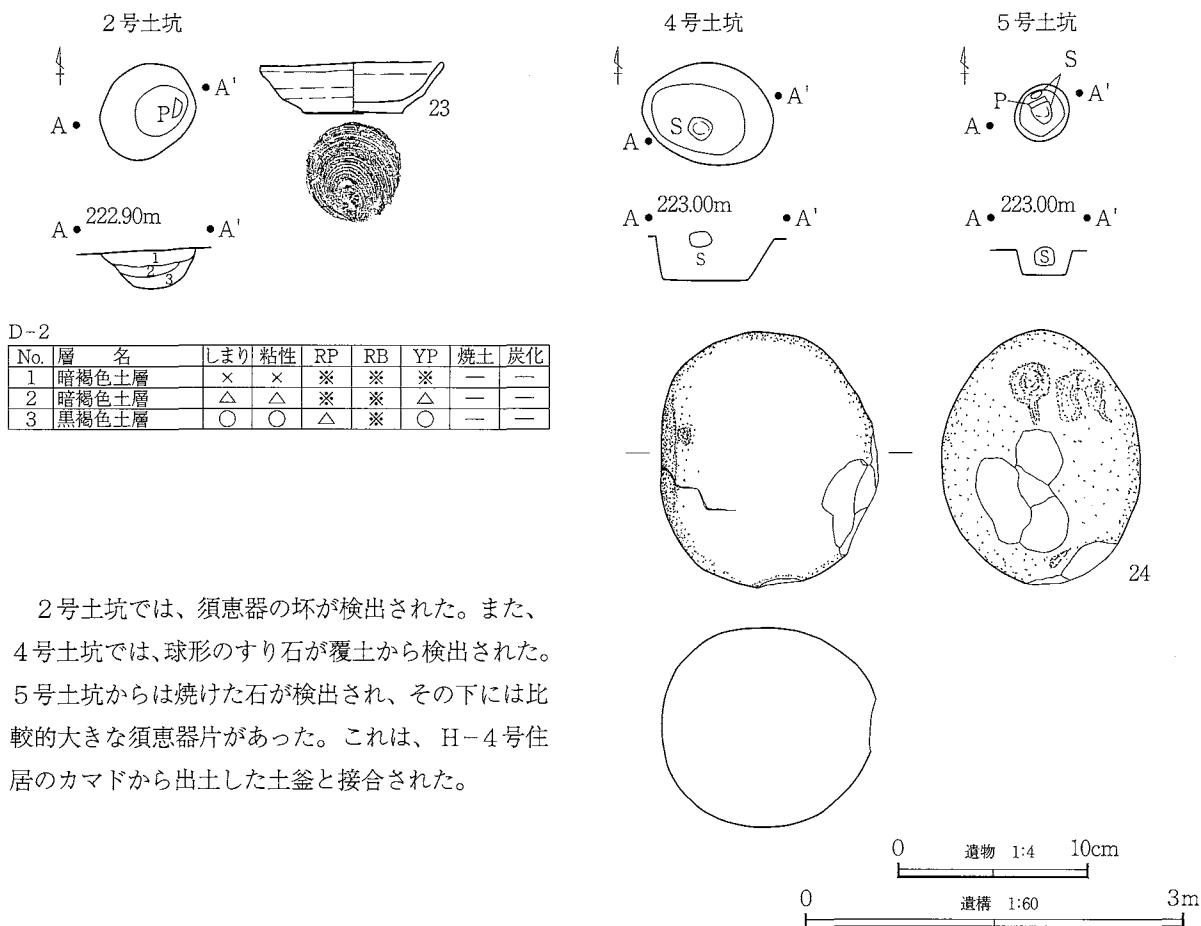
調査区の西端でH-3号住居を中心にして3軒の重複住居が検出された。出土遺物を精査した結果、H-3号住居（10世紀前半）< H-5号住居（10世紀後半）< H-4号住居（11世紀前半）の新旧関係であることが判明した。

H-3号住居貯蔵穴の上端は、ほぼ正方形で下端は円形を呈す。カマドには焼土は残っていたが、使用面の焼きしまりは見られなかった。床下土坑は、2基が検出された。ピットについては、検出されなかった。

H-4号住居は、床下に古く深い攪乱があり、カマド北半分を中心とした調査を行った。

H-5号住居もカマド中心の調査となった。住居北側の肩では黄色軽石が崩れるのを防ぐため、意図的に埋め土をしているのが観察された。

(2) 土坑



第13図 平安時代土坑・出土遺物

4 遺物について

第2表 北浦遺跡遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1	縄文土器 深鉢	口径 - 底径 - 器高 <6.0>	①普通 ②鈍い橙色 ③白色粒・石英・角閃石 ④口縁部破片	波状口縁、口縁部無文帯、隆線、縄文RL横位施文。	J-1号住居 炉
2	縄文土器 深鉢	口径 - 底径 - 器高 <6.3>	①普通 ②鈍い褐色 ③白色粒・礫 ④口縁部破片	平口縁、口縁部無文帯、沈線、縄文RL横位施文。	J-1号住居 炉
3	縄文土器 深鉢	口径 - 底径 - 器高 <8.2>	①普通 ②褐色 ③白色粒・角閃石 ④口縁部破片	口縁部小突起、無文。	3号土坑 覆土
4	須恵器 蓋	口径 - 底径 3.5 器高 -	①還元 ②灰白色 ③白色粒 ④天井部～体部2/3	外面 ロクロ調整、天井部右回転ヘラ削り。 内面 ロクロ調整。	H-1a号住居 5区2層
5	須恵器 壺	口径 13.4 底径 7.4 器高 3.3	①還元 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部一部欠損	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-1号住居 カマド
6	須恵器 壺	口径 13.0 底径 8.0 器高 3.6	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部1/4欠損	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-1号住居 12区2層
7	須恵器 壺	口径 12.8 底径 7.8 器高 3.8	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④完形	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-1号住居 床下土坑
8	土師器 甕	口径(19.8) 底径 - 器高 <6.5>	①普通 ②鈍い赤褐色 ③白色粒・角閃石・雲母 ④口縁部～胴部上位1/3	外面 口縁部横撫で、胴部横位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位ヘラ撫で。	H-1号住居 カマド
9	須恵器 皿	口径 13.0 底径 6.5 器高 2.7	①還元 ②灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部1/2	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部回転撫で。 内面 ロクロ調整。	H-1b号住居 6区2層
10	須恵器 壺	口径 9.0 底径 4.3 器高 3.2	①酸化 ②鈍い橙色 ③白色粒・石英 ④完形	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 12区2層
11	須恵器 壺	口径(14.5) 底径 (7.6) 器高 3.5	①還元 ②灰色 ③白色粒・褐色・礫 ④口縁部～底部1/2	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 床下土坑
12	須恵器 椀	口径(12.0) 底径 6.0 器高 5.2	①還元 ②灰色 ③白色粒・角閃石・礫 ④口縁部3/4欠損	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部回転撫で。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 7区1層
13	須恵器 椀	口径(14.8) 底径 8.5 器高 5.5	①還元 ②灰色 ③白色粒・角閃石・礫 ④口縁部～高台部1/3	外面 ロクロ調整、底部不明。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 1区2層
14	須恵器 皿	口径 13.8 底径 7.2 器高 3.0	①還元 ②灰白色 ③白色粒・雲母 ④口縁部～高台部1/4	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部回転撫で。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 11区2層
15	須恵器 皿	口径 13.8 底径 7.2 器高 3.0	①還元 ②灰白色 ③白色粒・礫 ④口縁部一部欠損	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部回転撫で。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 カマド
16	須恵器 皿	口径 - 底径 8.0 器高 <2.0>	①還元 ②灰白色 ③白色粒・雲母 ④体部～底部残存	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部回転撫で。 内面 ロクロ調整。	H-2号住居 5区1層
17	土師器 甕	口径(20.8) 底径 - 器高 <6.5>	①普通 ②鈍い赤褐色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④口縁部～胴部上位1/5	外面 口縁部横撫で、胴部横位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位ヘラ撫で。	H-2号住居 14区2層
18	須恵器 壺	口径 12.4 底径 4.8 器高 4.1	①還元、軟質 ②浅黄色 ③白色粒・石英 ④口縁部～底部1/2	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-3号住居 カマド
19	須恵器 壺	口径(15.2) 底径 6.0 器高 5.5	①酸化 ②明褐色 ③白色粒・雲母・礫 ④口縁部～底部2/3	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	H-3号住居 貯蔵穴
20	鉄製品 釘	長さ 3.05 幅 0.3 重さ 1.1kg		頂部は方形を呈している。先端部の曲がりは、頂部からの加圧によるものと思われる。	H-3号住居 カマド
21	須恵器 土釜	口径(24.4) 底径 - 器高 <7.8>	①酸化 ②灰褐色 ③白色粒・褐色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 口縁部横撫で、胴部縫位ヘラ削り。 内面 口縁部横撫で、胴部横位ヘラ撫で。	H-4号住居 カマド
22	須恵器 羽釜	口径(23.0) 底径 - 器高 <10.8>	①酸化 ②鈍い橙色 ③白色粒・石英・雲母 ④口縁部～胴部上位破片	外面 ロクロ調整。 内面 ロクロ調整。	H-5号住居 カマド
23	須恵器 壺	口径 9.7 底径 5.3 器高 2.7	①酸化 ②鈍い黄橙色 ③白色粒・黒色粒・石英 ④完形	外面 ロクロ調整、底部右回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	2号土坑 覆土
24	石器 すり石	長さ 13.5 幅 11.3 厚 10.3 安山岩		1面。別な2面に割れが観察できる。 たたき石に転用か。	4号土坑 覆土

上ノ平遺跡の調査

I 調査に至る経過

平成24年6月5日、ソフトバンクモバイル株式会社モバイルネットワーク本部東京技術統括部基地局建設部部長 吉川 充氏(代理申請者：メディアテック一心東京支店 担当者 阿部 進)から、携帯電話基地(PLB安中小俣A局)建設工事予定地への確認調査の依頼書・発掘承諾書を含めた法93条に係わる必要書類が提出された。

平成24年6月20日、確認調査を実施する。同日午後、ソフトバンクモバイル株式会社の担当者、代理申請者に調査概要を説明するとともにその取り扱いについて協議した。計画通りに工事が実施された場合には遺構への影響は逃れられないので、発掘調査による記録保存を実施する方向で協議がまとまった。法93条通知については、平成24年6月25日付で「発掘調査」の指示を出した。

その後、発掘調査に向けての協議・調整を行い、同年10月31日付でソフトバンクモバイル株式会社と安中市埋蔵文化財発掘調査団(団長は、安中市教育長)の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。発掘調査は、11月6日から開始された。

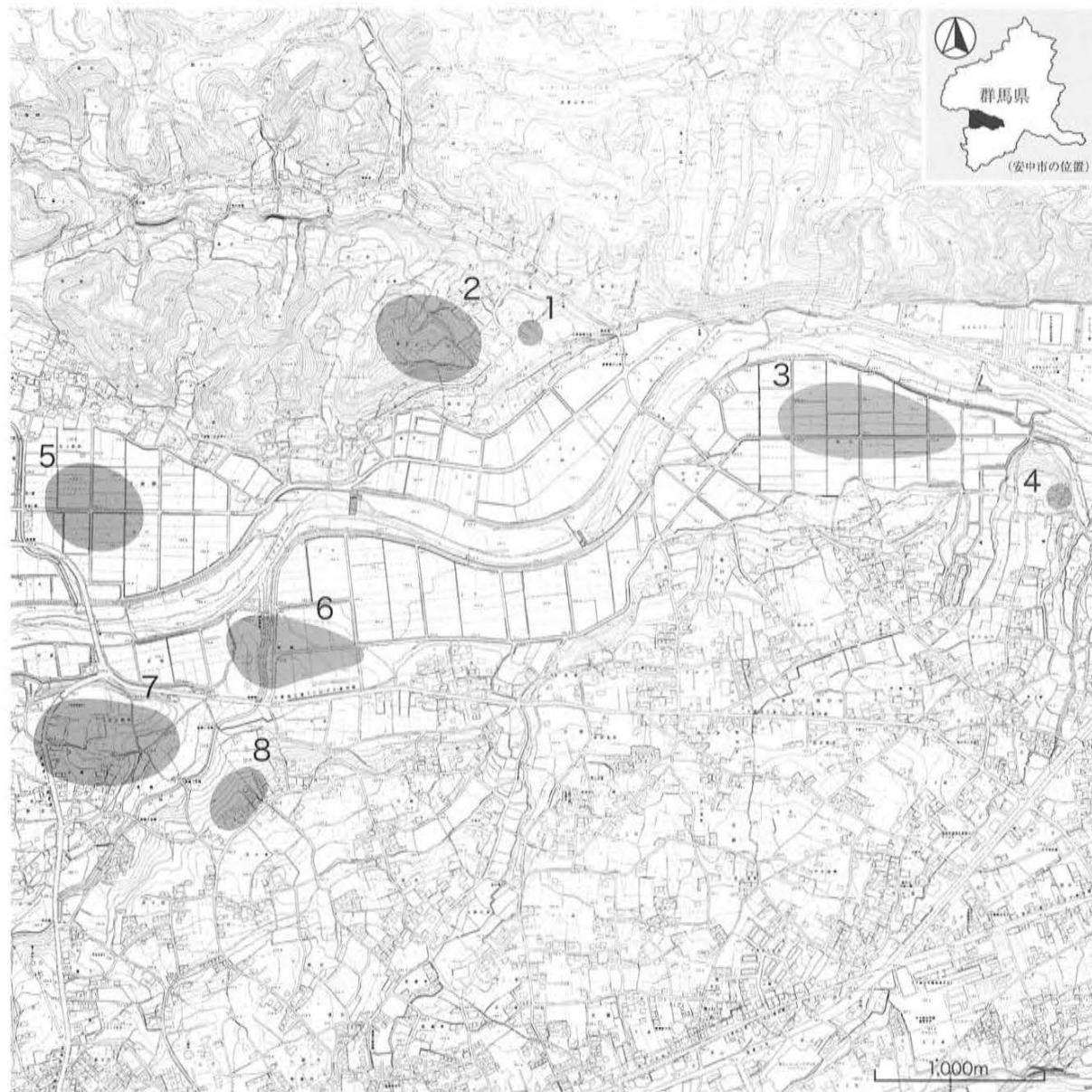
II 調査の方法と経過

発掘調査方法の概要については、次のとおりである。まず、確認調査の結果により、工事予定地内に南トレンチ・北トレンチの調査区を設定し、バックホーにより遺構面までの表土を掘削した。その後、ジョレンを使用して人力で遺構確認を行い、遺構の精査を行った。想定していたのは幅4mで深さ1.5m程度の溝であった。本調査で念のためサブトレを強めに入れたところ、実は確認していた溝は最終段階の物であり、当初はさらに広く、深い溝であったことが確認できた。そのため、土量が飛躍的に多くなり、期間と予算の関係から全面調査は困難と判断し、途中調査方針を転換し、断面調査を中心とすることにした。よって、今回の発掘はセクション重視の調査となった。

発掘調査は、平成24年11月6日から11月13日にかけて城館に係わると思われる溝を中心に調査した。調査区は工事設計図をもとに基準点を設定し、位置を記録した。遺構測量は、平板測量により1/40で作成し、遺構の高さを記録した。土層断面図は1/20で断面測量し、微細図についてはビニール転写法による測量により原寸大で作成した。出土した遺物は、層位を記録して遺構一括で取り上げた。

資料整理及び報告書作成は、発掘調査終了後、平成25年3月22日までの間、断続的に実施した。資料の基礎整理は、12月から1月に実施し、基礎整理終了後の1月から2月にかけて本格的に報告書の原稿執筆や編集作業に取り組んだ。

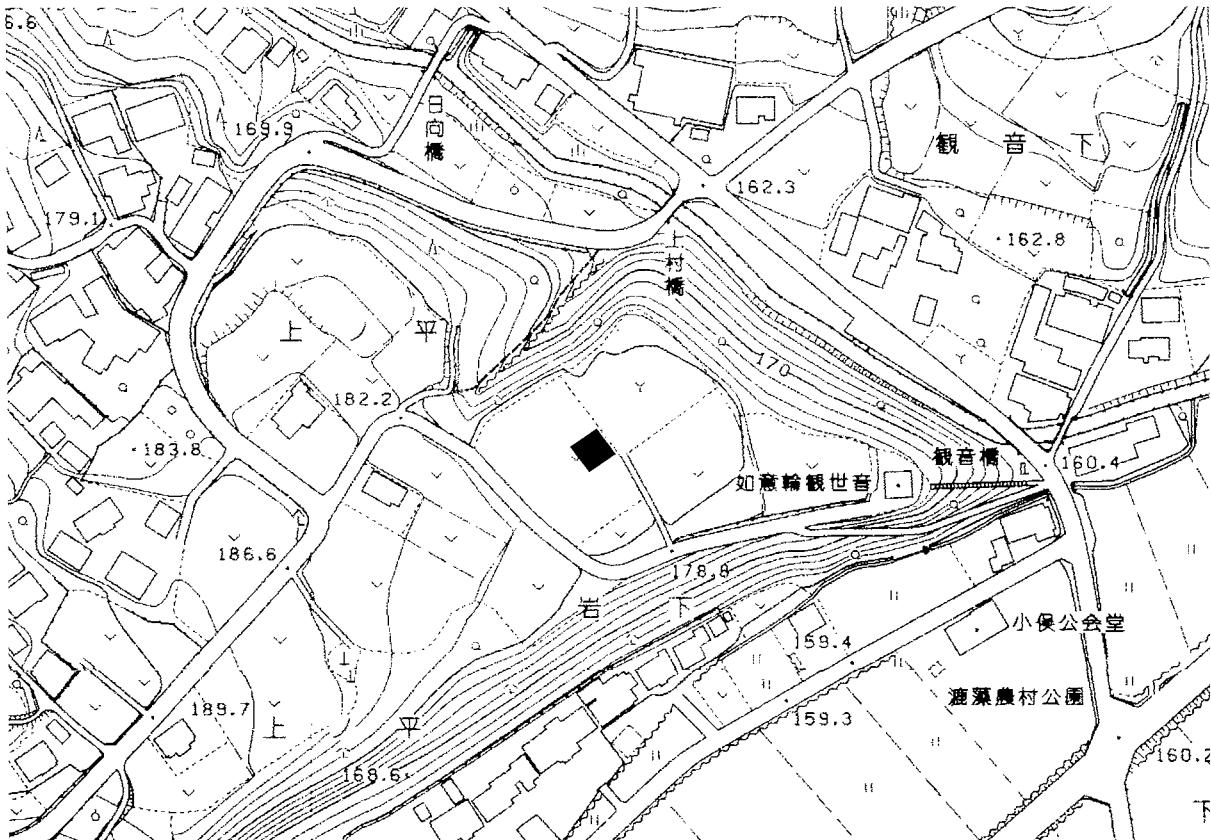
III 遺跡の環境



第14図 上ノ平遺跡周辺遺跡図

第3表 上ノ平遺跡周辺遺跡一覧

No.	< 遺 跡 名 >	(備 考)
1	上ノ平遺跡	本報告
2	諏訪山古墳群	古墳時代（円墳）
3	荒浜遺跡	古代水田跡
4	小峰遺跡	館跡か
5	広川遺跡	古代水田跡
6	高橋遺跡	弥生後期～古墳集落、後期古墳9基
7	杉名薬師遺跡	弥生後期～古墳集落
8	茂木東	館（方形区画）



第15図 上ノ平遺跡調査区位置図 1/2,500

1 地理的環境

安中市は、群馬県西部に位置し、東京都心まで約120kmの距離にある。西方には長野県との県境をなす碓氷峠があり、古くから交通の要衝として広く知られている。また、市域を東西方向に分けるかのように碓氷川が流れている。その北側には並行して九十九川が流れ、市内東部で両川は合流する。これらの河川流域には河岸段丘が発達している。

上ノ平遺跡が所在する小俣地区は、九十九川左岸のやや小高い丘陵に位置している。

2 歴史的環境

上ノ平遺跡は、縄文・平安の埋蔵文化財包蔵地（安中市遺跡 No.362）として登録されている。本遺跡の所在する小俣地区において発掘調査が行われた記録はない。また、時期不明ではあるが遺跡西側の山際には、円墳で構成されている諏訪山古墳群が所在する。

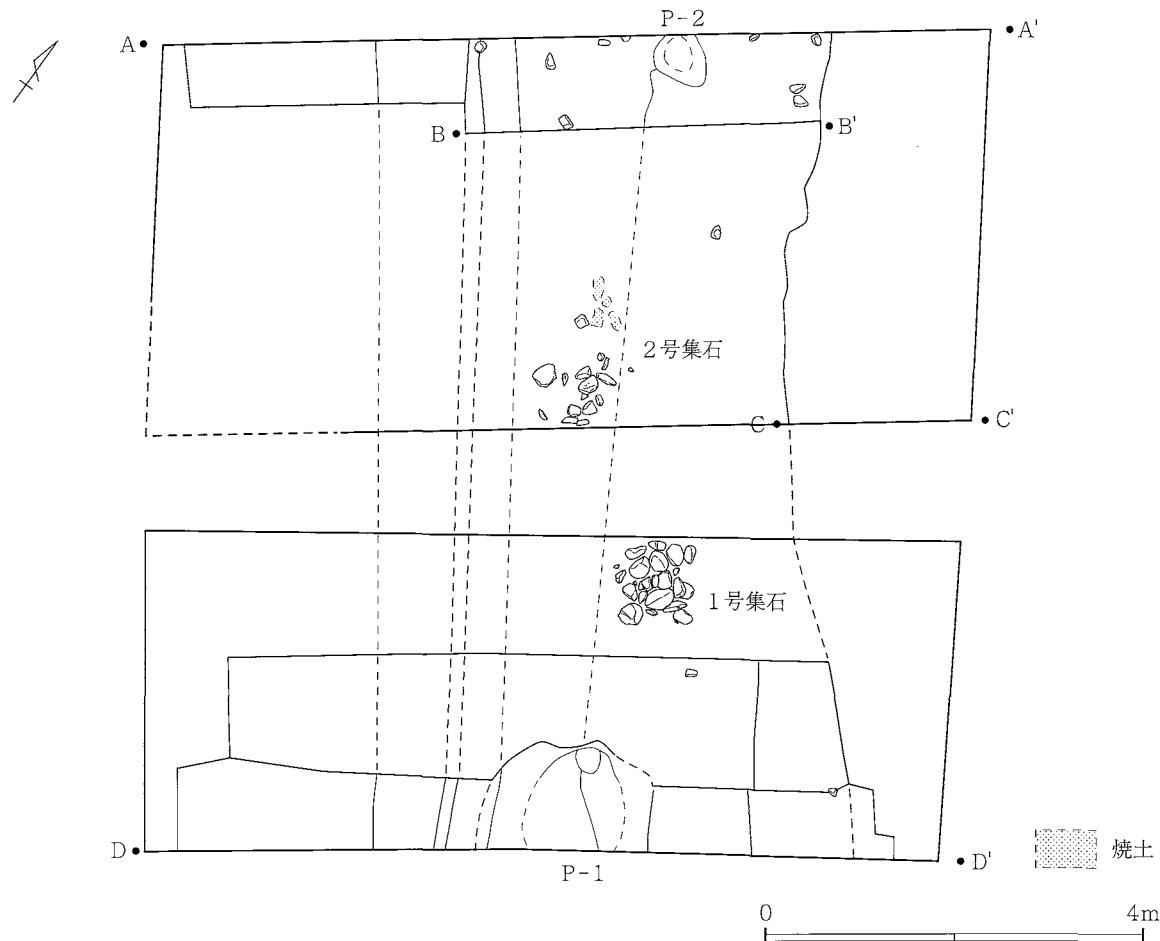
周辺の遺跡とその時期・概要については、「第14図 上ノ平遺跡周辺遺跡図」を参照していただきたい。

3 層序について

上ノ平遺跡の土層堆積は、Ia層（黒褐色）下から人為的な掘削が行われており、As-Aの純層が確認できるところはなかった。溝から外れたところでも Ia層の直下がV層（黄褐色粘質土層）となり、その間にある土層が削平により確認できない場所がほとんどであった。

IV 遺構と遺物

1 遺跡の概要



第16図 上ノ平遺跡全体図

想定していたのは幅4mで深さ1.5m程度の溝であったが、念のためサブトレを強めに入れたところ、縁と捉えていた西側部分は埋め戻し後に成形したものであることがわかった。つまり、施工当初の溝は上幅10mで深さも2mを越える大溝であったことが確認された。この溝は長期にわたり機能を維持していたようで、中層では集石が2基検出された。また、遺構埋め戻しに使われた土には意図的に浅間A軽石や片石が混入されていた。

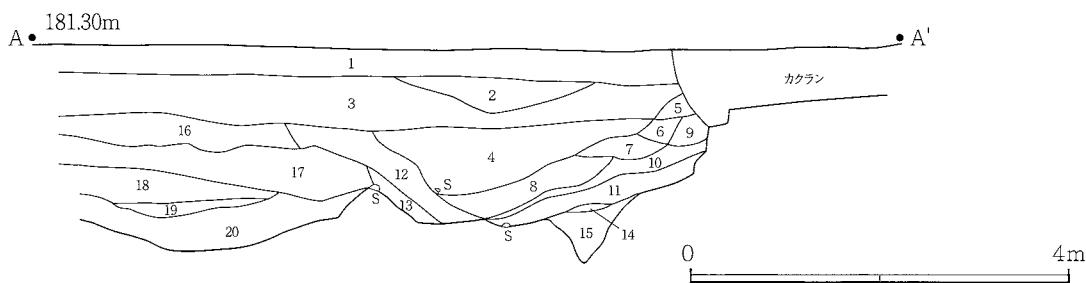
周辺の踏査から、城館の存在が想定される。よって、今回発掘された溝は、城館に由来する公算が高い。遺物は宝鏡印塔の相輪、小柄小刀、それに陶磁器などがあり、この溝は中世の所産と比定される。

2 遺構について

(1) 集石

溝の中層部から集石が2基検出された。最初に検出された南トレンチ内のものを1号集石とし、次に検出された北トレンチ内のものを2号集石とした。1号集石では、投げ込まれたのか割れている石も見受けられた。2号集石では緑色片岩が2点含まれていて、焼土が散っていた。いずれの集石も下部への広がりがなく、性格は不明である。

(2) 溝



北トレンチ 壁

No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土	炭化	As-A	As-B	片岩
1	暗褐色土層	×	△	—	—	—	—	—	◎	—	—
2	黒褐色土層	△	△	—	—	—	—	—	○	—	—
3	黒褐色土層	△	△	○	—	—	※	—	○	—	※
4	暗褐色土層	△	△	※	—	—	—	—	○	—	—
5	暗褐色土層	△	△	○	※	—	—	—	○	—	—
6	にぶい黄褐色土層	△	△	○	○	—	—	—	○	—	—
7	暗褐色土層	△	△	○	○	—	—	—	○	—	—
8	暗褐色土層	○	△	※	—	—	—	—	○	—	—
9	にぶい黄褐色土層	△	△	○	○	—	—	—	○	—	—
10	褐色土層	○	△	※	※	—	—	—	○	—	—
11	褐色土層	○	△	※	※	※	—	—	○	—	—
12	褐色土層	○	△	○	—	—	—	—	△	—	※
13	褐色土層	○	△	※	—	—	—	—	△	—	—
14	暗褐色土層	○	△	※	※	※	—	—	○	—	—
15	黒色土層	×	×	※	—	—	—	○	※	◎	—
16	褐色土層	○	△	○	○	○	—	—	○	—	○
17	にぶい褐色土層	○	△	※	—	—	—	—	※	—	—
18	暗褐色土層	△	○	※	—	—	※	—	—	—	—
19	オリーブ黒色土層	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—
20	オリーブ黒色土層	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—

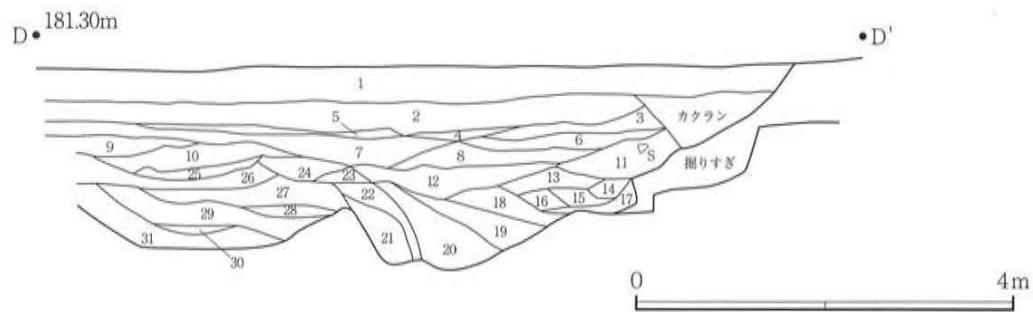
第17図 北トレンチ壁土層断面

北トレンチと南トレンチの土層を比較すると、僅かに距離が離れただけで、その様相がかなり異なる。共通しているのは、広い溝が人為的に埋められて、幅4メートル程度の浅い溝に造り替えられていることと、それぞれのトレンチにピット状の掘り込みが検出されたことである。また、ベルト土層断面を観察すると、溝の東縁で土壘の痕跡が僅かに確認できた。



第18図 ベルト土層断面・溝エレベーション

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の飯森康広氏の指導で調査区周辺を踏査した。第20図に示したように溝から東側にかけて曲輪状に削平された区画が三か所確認できた。また、観音堂を囲む三方の傾斜地には狭小な帶曲輪状の地形を確認することができた。今回検出された溝については、曲輪を尾根から分離する堀切であったと考えられる。また、堀切の延長に堅堀状の地形も観察することができた。

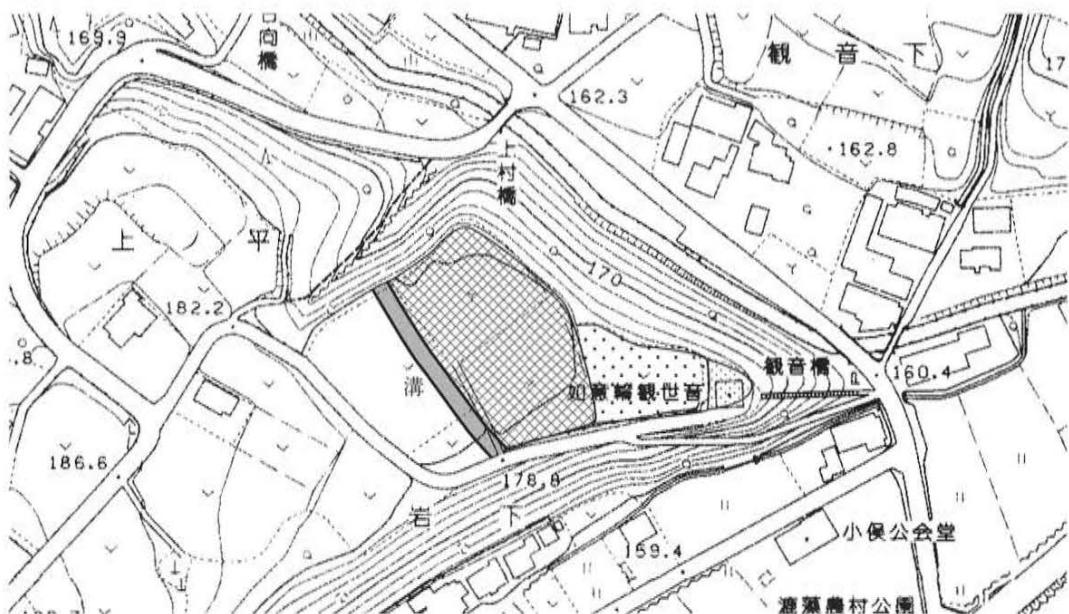


南トレンチ 壁セクション

No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土	炭化	As-A	As-B	片岩
1	暗褐色土層	×	△	—	—	—	—	—	◎	—	—
2	黒褐色土層	△	△	—	—	—	—	—	○	—	—
3	黒褐色土層	△	△	○	—	—	※	—	○	—	—
4	にぶい褐色土層	○	△	○	○	—	—	—	※	—	—
5	黒褐色土層	△	△	—	—	—	※	※	○	—	—
6	黒褐色土層	○	△	—	—	—	※	※	○	—	—
7	暗褐色土層	△	△	—	—	—	—	—	※	—	—
8	黒褐色土層	○	△	—	—	—	—	—	○	—	—
9	橙色土層	○	△	—	—	—	—	—	—	◎	—
10	にぶい黄褐色土層	○	△	—	—	—	○	—	○	—	—
11	暗褐色土層	△	△	○	△	—	△	—	※	—	—
12	にぶい赤褐色土層	△	△	△	△	△	○	○	○	※	—
13	にぶい赤褐色土層	△	△	△	△	△	○	—	○	※	—
14	にぶい褐色土層	△	○	—	—	—	—	—	—	※	—
15	にぶい褐色土層	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—
16	暗褐色土層	○	○	○	—	—	—	—	※	—	—

No.	層名	しまり	粘性	RP	RB	YP	焼土	炭化	As-A	As-B	片岩
17	にぶい赤褐色土層	△	○	—	○	○	—	—	—	※	—
18	暗褐色土層	△	△	※	—	—	△	△	※	—	—
19	黒色土層	×	×	※	—	—	—	—	○	—	◎
20	灰色土層	△	○	※	—	—	△	—	—	△	—
21	灰色土層	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
22	灰オーブ色土層	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
23	灰褐色土層	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
24	褐色土層	○	○	—	—	○	—	—	—	—	—
25	褐色土層	○	△	※	—	—	—	—	—	—	—
26	褐色土層	○	△	※	—	—	—	—	—	○	—
27	暗褐色土層	△	○	※	—	—	—	—	—	—	—
28	灰褐色土層	×	×	—	—	—	○	—	—	—	—
29	オリーブ黑色土層	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—
30	にぶい黄褐色土層	×	×	—	—	—	○	—	—	—	—
31	オリーブ黑色土層	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—

第19図 南トレンチ壁土層断面

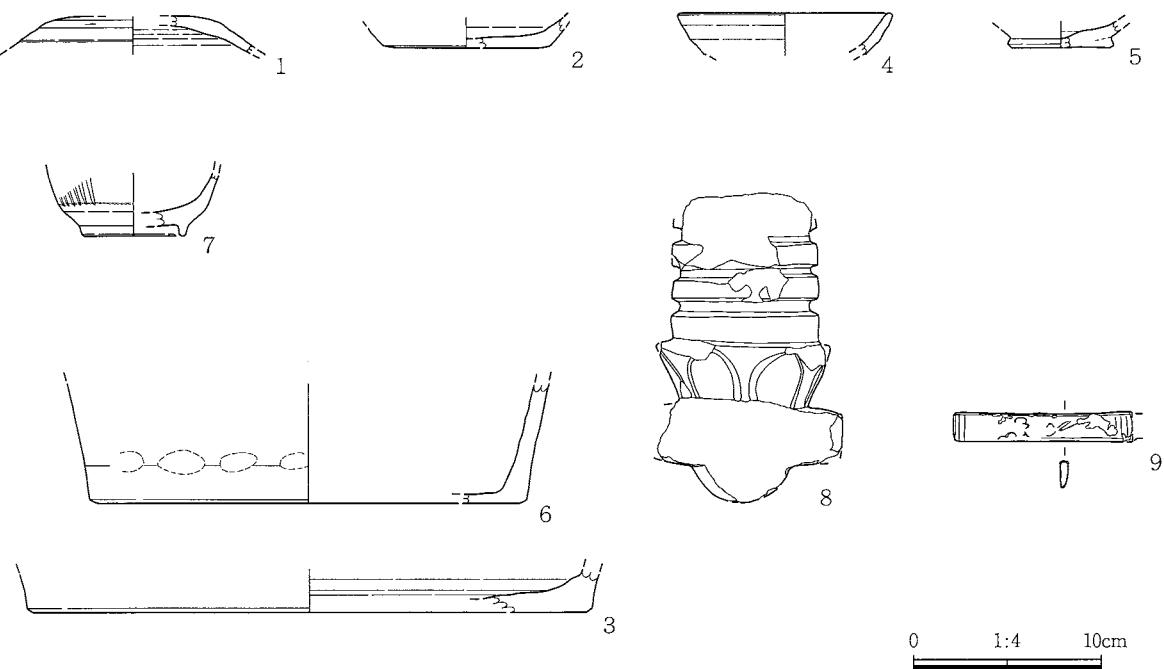


上段 中段 下段

0 125m

第20図 推定遺構模式図

3 遺物について



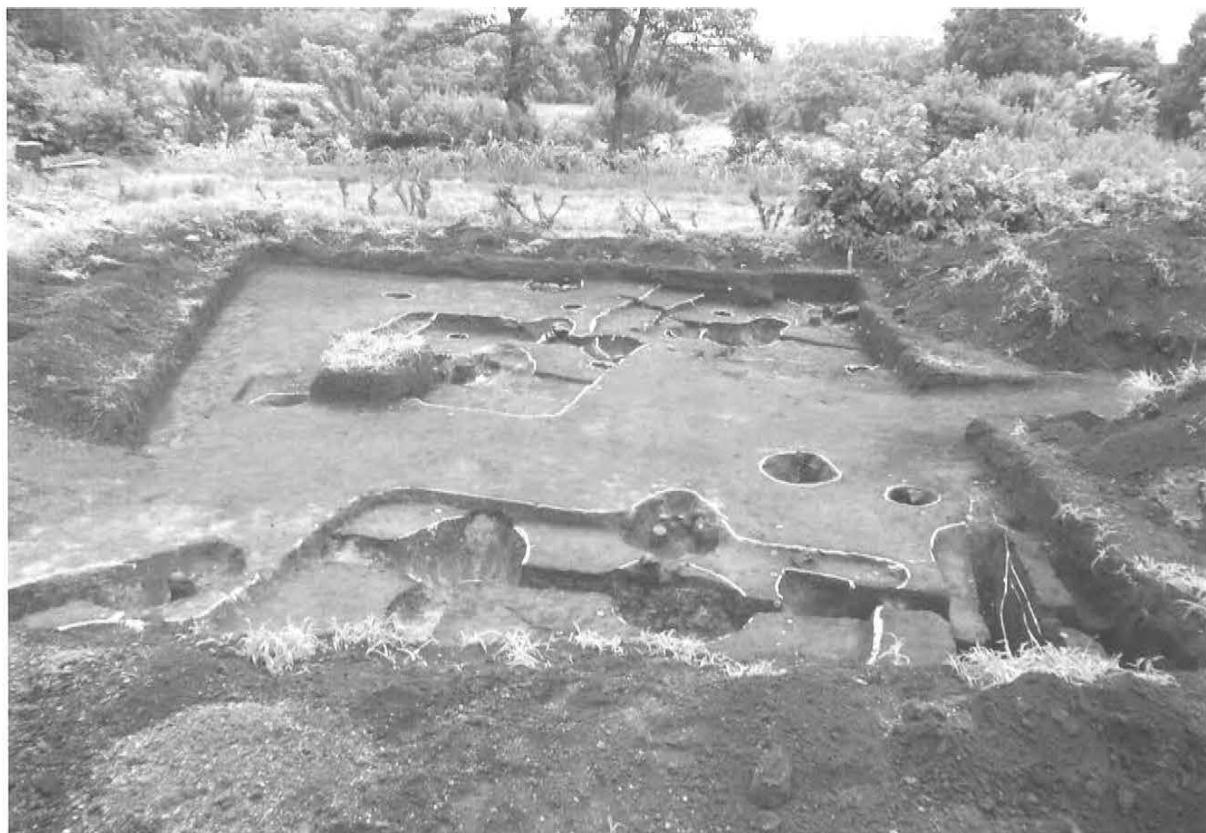
第21図 上ノ平遺跡出土遺物

第4表 上ノ平遺跡遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置	
1	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 -	①還元 ②灰白色 ③白色粒・褐色粒 ④天井部～体部1/5	外面 ロクロ調整、天井部右回転ヘラ削り。 内面 ロクロ調整。	1号集石 (南トレンチ 中層)	
2	土器 カワラケ	口径 - 底径(8.8) 器高 -	①普通 ②橙色 ③白色粒・褐色粒・角閃石 ④体部～底部1/3	外面 ロクロ調整、底部回転糸切り。 内面 ロクロ調整。	1号集石 (南トレンチ 中層)	
3	土器 焰烙	口径 - 底径(29.4) 器高 -	①普通 ②褐灰色 ③白色粒・黒色粒 ④胴部下位～底部1/10	外面 ロクロ調整、底部チヂレ目。 内面 ロクロ調整。	南トレンチ 中層	
4	陶器 皿	口径(11.0) 底径 - 器高 -	①普通 ②鈍い黄橙色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/10	外面 ロクロ調整、釉は灰釉。 内面 ロクロ調整。	南トレンチ 中層	
5	土器 カワラケ	口径 - 底径(5.2) 器高 -	①普通 ②橙色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④体部～底部2/5	外面 ロクロ調整、底部左回転糸切。 内面 ロクロ調整。	2号集石 (南トレンチ 中層)	
6	土器 内耳鍋	口径 - 底径(22.4) 器高 -	①普通 ②灰黄褐色 ③白色粒・角閃石 ④胴部～底部1/6	外面 ヘラナデ、指頭痕、下位ロクロ調整、底部無調整。 内面 ヘラナデ。	北トレンチ 中層	
7	磁器 碗	口径 - 底径(5.2) 器高 -	①普通 ②灰白色 ④体部～底部1/4	外面 一部に鍋、腰部に圈線。 内面 ロクロ調整。 肥前	北トレンチ 中層	
8	宝篋印塔 相輪	残存長16.45	残存幅9.75	重さ1,240 g	北トレンチ 底	
9	銅製品 小柄小刀	長さ9.45	幅1.45	厚さ0.45	重さ14.6 g	北トレンチ 底

写 真 図 版

PL 1 <北浦遺跡>



1. 北浦遺跡 全景(西から)



2. J-1号住居址 炉



3. 3号土坑 全景



4. H-1号住居址 全景



5. H-1号住居址 カマド・貯藏穴

PL 2 <北浦遺跡>



1. H-2号住居址 全景



2. H-2号住居址 カマド



3. H-3号住居址 全景



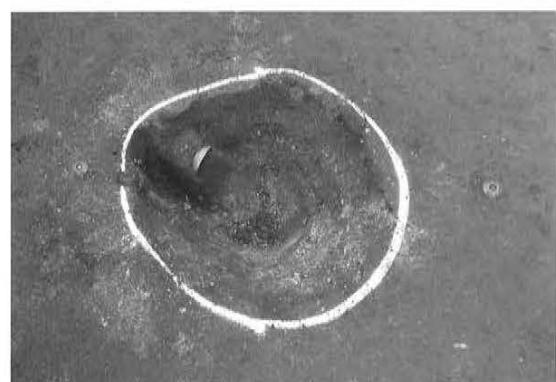
4. H-3号住居址 カマド



5. H-4号住居址 カマド土層断面



6. H-5号住居址 カマド

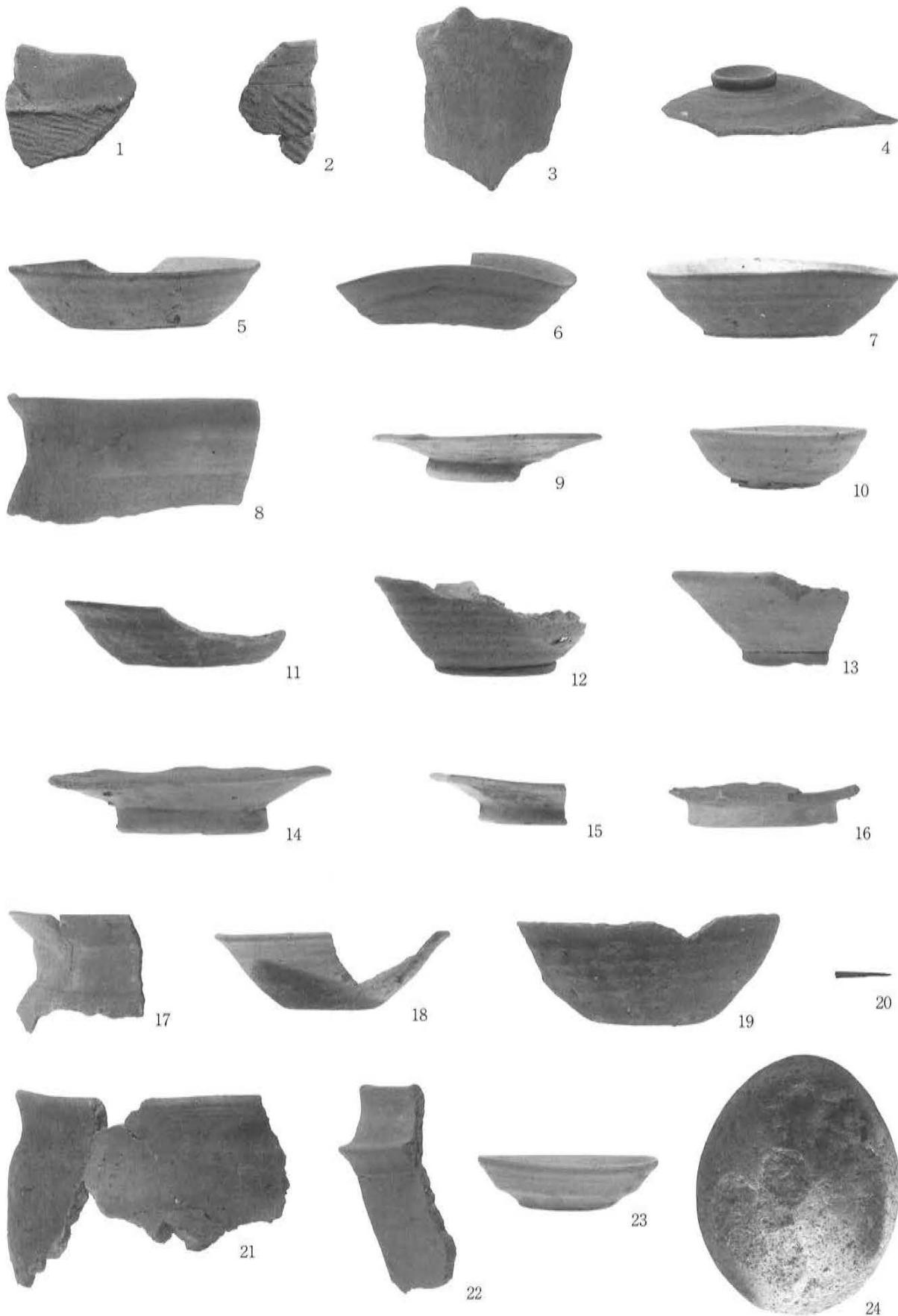


7. 2号土坑 全景



8. 5号土坑 全景

PL 3 <北浦遺跡> 出土遺物 1 ~ 24



PL 4 <上ノ平遺跡>



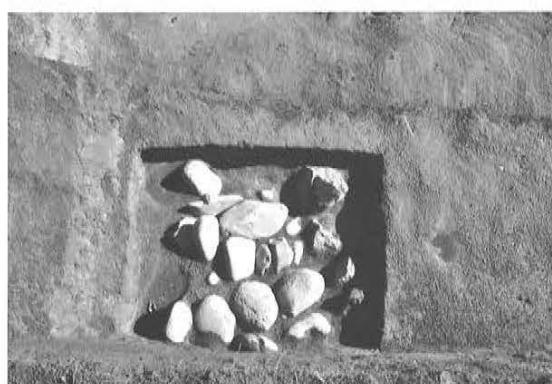
1. 南トレンチ 全景(東から)



2. 南壁土層断面



3. ピット1 検出状況



4. 1号集石 全景



5. 上ノ平遺跡 全景(西から)

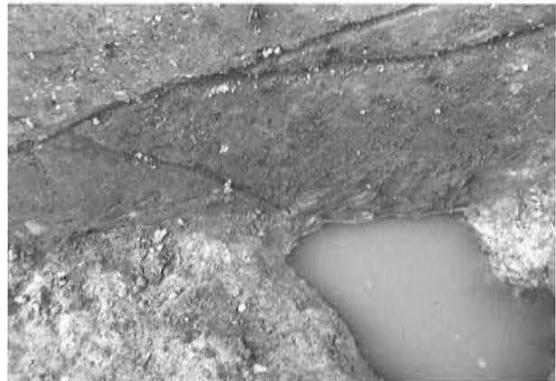
PL 5 <上ノ平遺跡>



1. 北トレーニング 全景(西から)



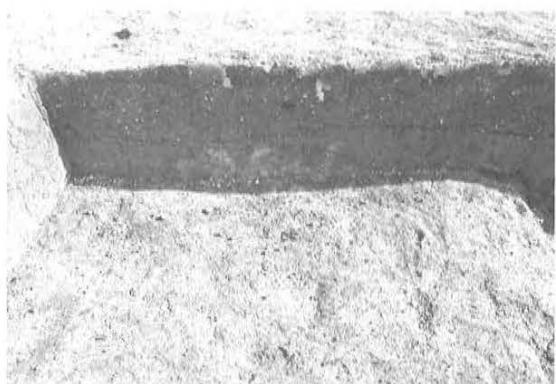
2. 北壁土層断面



3. ピット2 検出状況



4. 2号集石 全景



5. ベルト土層断面

PL 6 <上ノ平遺跡>



1. 上ノ平遺跡 調査風景



2. 上ノ平遺跡 遠景(南から)

3 出土遺物 1～9



1



2



3



4



5



6



7



8



9

発掘調査報告書 抄録

ふりがな	きたうらいせき うえのたいらいせき
書名	北浦遺跡 上ノ平遺跡
副書名	携帯電話基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	なし
シリーズ番号	なし
編著者名	瀧川 仲男
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 (安中市教育委員会内) TEL 027-382-1111
発行年	西暦2013年(平成25年)3月22日

所収遺跡名	所収遺跡名 所在地	コード		北緯 °, ′, ″	東経 °, ′, ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたうらいせき 北浦遺跡	あんなかしのどの 安中市野殿 あざきとうら 字北浦403-1	102113	H-5	36° 19' 26"	138° 54' 50"	20120702 ～ 20120713	100m ²	携帯電話 の基地局 建設工事
うえのたいらいせき 上ノ平遺跡	あんなかしのまつ 安中市小俣 あざうえのたいら 字上ノ平268-1	102113	D-30	36° 20' 04"	138° 52' 15"	20121106 ～ 20121113	56m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北浦遺跡	集落	縄文時代 奈良・平安時代	住居、土坑	羽釜、土師器、須恵器	なし
上ノ平遺跡	城館	中世	溝、集石	相輪、小柄小刀、陶磁器	なし
要約	安中市内における携帯電話基地局建設工事に伴う狭小な範囲での埋蔵文化財発掘調査。 北浦遺跡では、奈良・平安時代の集落跡が検出された。 上ノ平遺跡では、中世の城館に係わると思われる溝跡が検出された。				

北浦遺跡・上ノ平遺跡 — 携帯電話基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —
発行日 平成25年3月22日
編集・発行 安中市埋蔵文化財発掘調査団 群馬県安中市松井田町新堀 245 (安中市教育委員会内)
印 刷 碓氷印刷株式会社 群馬県安中市松井田町松井田 718-1